

1 研究主題

自ら学び、自ら考え行動する生徒の育成
ーさまざまなメディアを活用し、主体的に学習する生徒の育成ー

2 研究主題について

「生きる力」を育むという新学習指導要領の基本理念を実現するため、思考力・判断力・表現力の育成や確かな学力を確立するために必要な時間の確保などがポイントとしてあげられている。特に、多様な情報の中から必要な情報を効率的に選択し、それらをもとに自分の考えや思いを主体的に表現・発信する力の育成を図ることが学校教育に求められていると考えられる。それはまさにメディア教育の担う役割であり、加速化する高度情報化社会の中においてその役割はますます大きくなってきている。そこで、本部会では、さまざまなメディアの活用を推進し、その活用方法を探ることにより、主体的に情報を活用する生徒の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の進め方

(1) 研究の概要

各校の授業実践・研究授業・研究討議を通して主題に迫る。

(2) 研究の経過

ア 4月21日（坂出市立白峰中学校）

研究組織及び主題の決定、研究の進め方についての共通理解

イ 6月24日（坂出市立白峰中学校）

研究授業、研究討議、各中学校での実践事例についての情報交換

ウ 11月4日（綾川町立綾上中学校）

研究授業、研究討議、NHK学校教育部門統括ディレクターによる放送教育の授業への活用についての講演

エ 12月2日（坂出市立白峰中学校）

今年度の研究のまとめ、坂・綾中学校教育研究会研究紀要の内容検討、情報交換

4 研究と実践

(1) 研究授業 I

ア 第2学年5組 音楽科（選択音楽）題材名 コンピュータを使って音楽をつくろう
授業者 坂出市立白峰中学校 小田 英二

イ 本授業の主張点

音楽の創作領域が「理解することができること」につなげるためにコンピュータや創作ソフト（音楽帳5 河合楽器製作所）を活用する。このことにより、読譜能力の乏しい生徒の創作や音楽に対する意欲を喚起できると考えた。

ウ 授業者から

創作ソフトを使用することで、生徒が積極的に取り組むことができた。特に、1人にPCが1台なので自分が作ったものをその場ですぐ確認できることは意欲化に効果的である。ただ、創作ソフトに関する多くの生徒の質問に応じることは1人ではたいへんであった。

エ 討議内容

今回使用した創作ソフトは、音符を簡単に入力でき



るものであり、創作領域が普段あまり扱われていないだけに本授業の取り組みは価値がある。ただ、生徒個々の能力や進度の差が大きいので、ソフトの操作やデータの保存方法などの指導を行う上で、生徒個々の理解度や進捗状況にあわせたワークシートの工夫などが必要である。このような創作ソフトを今後積極的に検討、導入し、効率的な活用法を工夫していくことで、生徒の意欲化を促すとともに読譜能力の向上が図れるのではないかと考える。

(2) 各教科でのメディアを活用した実践例

- ア 社会……スマートボードを利用した授業。市販ビデオ教材の利用。5択クイズ。
- イ 理科……理科ネットや教材集からの動画の活用。実験結果のビデオ録画。
- ウ 技術……携帯電話のトラブルに対応するための情報モラル教育。
- エ 数学……サイトからの動画利用。関数のグラフ提示。
- オ 英語……フラッシュカードに替わる映像提示。海外情報検索と翻訳。
- カ 国語……板書に代わるものとしてのスマートボードを利用した授業展開。

(3) 研究授業Ⅱ

- ア 第3学年1組 技術・家庭科 題材名 情報伝達の安全性とマナーを考えよう
授業者 綾川町立綾上中学校 善生 和宜

イ 本授業の主張点

電子掲示板におけるトラブルの事例コンテンツを視聴して、情報発信や受信する際の問題点や注意点についてグループで話し合わせる。情報端末を利用することで発生するトラブルを予測し、未然に防ぐことの重要性に気付くことができると考えた。

ウ 授業者から

今回の授業で情報モラルについて初めて考えることとなったが、生徒の中から適切な電子掲示板の使い方が出てくることを期待した。特に、電子掲示板では相手の姿が見えないものの、人との関わりであるという観点から、生徒の道徳的な捉え方によって適切な対応方法をグループでの話し合いから導き出されることをねらった。

エ 討議内容

生徒の電子掲示板などの利用についてより具体的な実態を把握した上で、事例コンテンツなどの教材選択を行うことが重要であり、学習したことがすぐに役に立つことが求められる。校内のイントラネットでの疑似体験で実感しながら理解するコンテンツも有効である。また、事例からトラブルを未然に防ぐ方法以外にトラブルにあったときの対処法についても学ぶとともに、学んだことを家庭に知らせることで家庭との連携の強化も図ることもできる。

(4) NHK 学校教育部門統括ディレクターによる放送教育の授業への活用のあり方についての講演

実際にNHKデジタル教材のホームページにアクセスし、放送番組や動画クリップのビデオ教材をはじめ、自習に適する双方向教材や授業案集など学習に役立つ教材の紹介と有効な利用の仕方について学ぶことができた。また、テレビ会議などのメディア機器やデジタル教材の今後の方向性についてもご示唆いただいた。

5 今後の課題

メディア機器の活用を進めていくとともに、生徒の主体的な学習を促すために、学習内容や生徒の実態などに適したソフトウェアやデジタルコンテンツの選択・導入を図り、その有効な活用方法を探っていかなければならない。また、ネット上でのトラブルが社会問題化している現状に対し、最新の情報を把握しつつ情報モラルの学習を強化していかなければならない。以上の課題をふまえ、平成22年度の四国放送教育研究大会に向けて、研究の積み重ねと授業実践を推進していきたい。